

つちおと

平成30年4月26日発行
宮城復興局気仙沼支所気仙沼市笹が陣3-5
気仙沼市シルバー人材センター内

3/25(日) ～ 本吉気仙沼道路 開通! ～

3月25日、「本吉気仙沼道路(大谷海岸IC～気仙沼中央IC)」が開通しました。今回の開通は、気仙沼市内の三陸沿岸道路区間では、東日本大震災後、初めての開通区間となります。

気仙沼市の基幹産業である水産業では、輸送時間の短縮により、気仙沼市や水産・流通関連企業で推進している輸送効率化や販路拡大の取り組みが期待されます。また、東日本大震災では、併走する国道45号が津波により浸水しましたが、本吉気仙沼道路は津波浸水区域を回避できることから、災害時にも緊急輸送路として機能する信頼性の高い交通ネットワークが確保されます。

このほか、交通分散による混雑緩和、新気仙沼市立病院への速達性向上、交流人口拡大、観光の活性化の支援が期待されます。式典には約400名が参加。テープカットで開通を祝いました。



3/29(木) ～ 南三陸町志津川 国道45号(水尻橋・汐見橋)復興 ～



志津川市街地復興まちづくり事業とあわせて実施していた、国道45号の嵩上げならびに、水尻橋、汐見橋の工事が完了し、交通を迂回させていた国道45号が3月29日に新たな国道45号として開通しました。

迂回路からの交通切替えに先立ち汐見橋にて、地域住民の方による渡り初め式が行われ国道45号の復興を祝いました。

2/28(水) ～ 第20回復興交付金交付可能額通知 ～

1月中旬に被災自治体から提出された復興交付金事業計画に対して、2月28日に復興庁から交付可能額の通知を行いました。

気仙沼市に約4.7億円、南三陸町からの申請は事業間流用のみでした。

これまで、平成23年から20回にわたって復興交付金の交付可能額通知を行っています。気仙沼市は合計事業費で約3,646億円、南三陸町は合計事業費で約1,423億円を配分しています。

～ 進む震災復興【三陸沿岸道路 歌津本吉道路】 ～

三陸沿岸道路は仙台港北ICから八戸JCTまで延長約359kmの自動車専用道路です。東日本大震災後、道路が通る概ねの範囲が示され、市町や住民の意見を踏まえながらルートが確定、震災から約8ヶ月後の平成23年11月に全線事業化されております。

歌津本吉道路は、三陸沿岸道路の1区間を構成しており、延長は約12kmです。南三陸町と気仙沼市に跨がり、歌津ICを起点とし旧国道346号との交差点(津谷BP終点)付近を終点としております。

当該区間に平行する国道45号は、東日本大震災により、歌津大橋、二十一浜橋、小泉大橋の3橋梁が被災しました。歌津本吉道路は津波浸水域を回避、あるいは高架化していることから、大規模災害時でも緊急輸送路が確保され、支援物資の輸送が可能となります。



事業は国内初となる官民連携による『事業促進PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ)』の推進体制にて進められています。

平成24年4月より地区ごとに設計及び用地の幅杭打設に係る説明会、平成24年9月に用地調印式が行われ、平成24年11月には着工式が行われました。新規事業化から1年以内という異例のスピードでの即年着工の運びとなっております。



主な構造物として7つの橋梁が計画されております。特に、津谷川を跨ぐ(仮称)津谷川橋の基礎部は当該区間で唯一のニューマチックケーソン工法※にて施工されております。地中に圧力をかけるため、周辺地盤への影響や井戸水等への影響を調査並びに観測しながら施工が進められました。

当該道路には5つのICが計画されております。3つの区間で構成されることとなりますが、その内2つの区間が平成30年度内に供用される予定であり、国土交通省仙台河川国道事務所の2名の監督官のもと工事が進められております。

苦労した点等を北陸地方整備局から応援に来て頂いている南谷監督官からお聞きしました。

『津谷川の前後における盛土量は約120万m³(ダンプトラック約24万台分)にもものぼるため、多い日には一日延べ3,000台のダンプが走行した時もありました。公道を汚損してしまう事態になることから工事業者で構成する協議会にて毎月道路清掃を行っております。』



また津谷川には鮭や鮎の遡上・放流があることから、漁業協同組合等と調整の上、土砂等が河川に流出しないようオイルフェンス等を設置して施工を進めました。

地区の皆様にはご迷惑をおかけしておりますが、皆さんとても協力的でありがたく思っております。三陸道への期待に応えられるよう一日も早い供用を目指し頑張っていきます。』とのお話を頂きました。北陸地方より気仙沼・南三陸地域の復興にご尽力頂きありがとうございます

※1:ニューマチックケーソン工法とは、掘削面に圧力をかけ、地下水の侵入を防ぎながら地中を掘り下げ、地中部にコンクリートの基礎部分を構築する工法

3/5^月 ～ 地域の防災を考えるサロン開催！ ～

3月5日、気仙沼市錦町コミュニティセンターで、鹿折まちづくり協議会と神戸大学都市安全研究センターが共に企画した「地域の防災を考えるサロン」が開催され、地域住民53名が参加しました。

「地域の防災と避難について考えましょう」という内容で、阪神淡路大震災当時の被災地の様子、これまでの取り組み経過や、震災後の避難・防災対策についての講演と意見交換が行われました。

東日本大震災から7年、災害や防災対策についてあらためて見直すよい機会となりました。

3/31^土 ～ 気仙沼図書館・気仙沼児童センターが開館！ ～

3月31日に、新気仙沼図書館が開館しました。新館(2,757.52㎡)には、震災、海事水産、地域活性化といったコーナーが新設され、新たに市民が交流するスペースとしてカフェが併設。また、市内でインドネシア人技能実習生が多く働く縁から、インドネシア政府より送られた寄付金を活用し、児童図書室「ユドヨノ友好子ども館」が設置されました。

更に、「古町児童館」の機能を移転整備し、気仙沼児童センター(463.88㎡)が併設。図書館との連携による相乗効果が期待されます。

挨拶の中で市長は「インドネシア政府をはじめ、さまざまな方々からのご支援により、本日開館の図書館があります。これまでのご支援、ご協力に感謝申し上げます」と語りました。



<施設概要>

鉄筋コンクリート造3階建て
延床面積3221.4㎡
蔵書数約23万冊

(開架一般図書10万、児童図書3万)

1階:【図書館エリア】

エントランスホール、総合サービス、児童図書
エリア、おはなしのへや、カフェ・フリースペース

【児童センターエリア】

屋内遊戯室、乳幼児遊戯室(子育て支援センター)、
児童会議室、集会室、創作活動室(図書館
と共用)

2階:一般図書エリア、学習室、会議室、閉架書庫

3階:空調機械室

〒988-0073

気仙沼市笹が陣3-30

(TEL:0226-22-6778)

◆支所長コラム

新年度がスタート致しました。昨年度末から今年度初めにかけて、道路では三陸道(大谷海岸IC～気仙沼中央IC)が開通、志津川地区では国道45号の交通切替え、歌津地区では県道弘川町向線が新ルートで開通、気仙沼市と一関市を結ぶ国道284号では室根バイパスが開通しました。施設関連では気仙沼図書館、気仙沼駅前プラザ、南三陸町学校給食センター、志津川郵便局の落成式が各々執り行われました。

また、3月30日には復興庁より被災者支援総合交付金の交付可能額通知がなされました。気仙沼市は4事業に約1億9,800万円、南三陸町は2事業に380万円となっております。

復興は着実に進んでいます。気仙沼支所も新たなメンバーで頑張っていますので、今年度もよろしくお願ひ致します。(吉)

復興関連イベント

各地で開催される
復興イベントをご紹介します。

【5月5日(土)】唐桑せんたんツアー【気仙沼市】

復興庁の「新しい東北 復興・創生顕彰」に選ばれた「しごと場・あそび場ちよいのぞき」

5月の第一週は唐桑の海岸や森をみんなでハイキング！

お申し込みは気仙沼市観光サービスセンターへ ☎0226-22-4560 <https://cyoinozoki.jp>

【5月27日(日)】歌津遊漁船部会 復興祈念 第4回カレイ釣り大会【南三陸町】

カレイと言えば歌津という人もいるぐらい！今年は昨年とレギュレーションが変わっておりますのでご注意ください。

伊藤洋平さんの歌津応援ライブもあります。

お問い合わせは、宮城県漁業協同組合歌津支所(担当:阿部080-1663-6903)まで。

～唐桑の「赤皿貝」を使用した駅弁と加工品の試食会～

宮城県漁業協同組合唐桑支所が、復興庁の「被災地域企業新事業ハンズオン支援事業」を利用して、地元で獲れる「赤皿貝」を食材として商品開発を進めていた駅弁『復刻「赤皿貝炊き込み飯」』及び赤皿貝炊き込み飯の素、赤皿貝アヒージョ、赤皿貝とまとチャウダーが4月21日より商品化されました。

4月19日には、仙台で試食お披露目会が開催されました。商品開発に加わった関係者とともに駅弁を食した小谷野宮城復興局長から、『宮城県の食材を堪能できる一品であり、旅情をそそる駅弁が唐桑・気仙沼を訪れる機会になってくれれば』との期待が述べられました。また、関係者からは、『これまで一般に馴染みのなかった赤皿貝をマーケットで拡大することは、これからが正念場。味には自信がある。』との抱負も語られました。

JR仙台駅で販売される同商品は、今後地域活性化の一助となることが期待されます。



はじめまして！

4月より水産庁から気仙沼支所次長に就任致しました川田と申します。

水産都市である気仙沼市、南三陸町の復興は、日本の水産業全体の復活にとっても不可欠と考えます。

着実な復興に向け、微力ではございますが一緒に参加させていただきたくどうぞよろしくお願い致します。

【編集後記】

◆震災後7年が経過し、住宅や道路の整備は進みました。一方で、心の復興や産業の復興はまだ不十分な所もあるようです。これからも「つちおと」は気仙沼・南三陸のちいさな復興にも目を向けて、皆様にお伝えしていきたいと思えます。

～気仙沼図書館の桜～



これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

復興庁HP (<http://www.reconstruction.go.jp/>)

→ 宮城復興局

→ 気仙沼支所だより「つちおと」

「つちおと」発行元(お問い合わせ先)

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所

電話 0226-23-5301

FAX 0226-23-5310